



フリージア新品種「石川f1号」

「石川f1号」の特性 (2005)

品種名	花色	花数 (個)	茎長 (cm)	茎径 (mm)	花下がり 傾 向
石川f1号	浅 紫 (8603)	10.6	56.6	4.3	無
ブルーヘブン	浅青味紫 (8303)	7.6	51.3	3.5	有

(注1) 花色は日本園芸植物標準色票による  
(注2) 定植は2004年10月6日、無加温ハウス栽培

会員の活動を紹介

【金沢市農協花き部会】

\*花も地産地消！

選ばれる産地を目指しています\*

江戸時代から続く花の産地である今町、月影町を中心とする花園地区と、鈴見町を中心とする金浦地区で露地ギクを主体に、ケイトウ、オミナエシ、リアトリス等多数の草花や花木を栽培しています。また、粟崎、五郎島町を中心とした粟五地区ではヒマワリ、ケイトウ等の洋花の栽培を行っています。

本年は部会内の小ギクの共販組合である花園花卉共販組合において新しい取り組みを行いましたので報告したいと思います。平成9年から行っている小ギクの共販ですが、市場からは品質にバラツキがあり、箱を開けてみないと品質がわからないと言われていました。そこで、パケットでの出荷を行うことにし、同時に旧盆、新盆

のみであった共販を6～10月継続して行うこととしました。パケットですが、写真のような容器に水をはり、そこに小ギクをさして、上をビニールでまいた状態での出荷です。見た目にはすぐに品質がわかり、鮮度が非常によいことから非常に好評でした。こうした出荷方法は色々な花で行われていますが、小ギクでの取り組みは全国的に珍しく、10月に千葉県幕張で行われた第4回国際フラワーEXPOでも金沢市農協花き部会の小ギクが展示されました。

野菜は地元のものを求める消費者も多くなっていますが、花に関してはそんなことはほとんどありません。金沢でも花を作っていることを消費者にアピールして、金沢の花を使ってもらえるように努力していきたいと思っています。

(金沢市農協花き部会事務局 浦田 和昌 氏)



花園花卉共販組合のメンバー



小菊のバケット出荷 (荷姿)

花だより

●発行 石川県花き園芸協会  
事務局:石川県農林水産部生産流通課内  
金沢市鞍月1丁目1番地  
TEL (076)225-1621  
FAX (076)225-1624

Vol.5

発行日 平成20年3月31日

協会の活動紹介

第3回 石川県花き品評会表彰式を開催

平成20年2月22日(金)、石川県農業総合研究センターにおいて、第3回石川県花き品評会表彰式が開催され、入賞された5名の方々に賞状が授与されました。

表彰式は、寺本会長の挨拶で開会し、来賓として、県農林水産部種本生産流通課長、全農石川県本部園芸課北本課長、金沢総合花き株式会社上坂社長、株式会社金沢花市場河原主任にご臨席いただきました。

品評会の審査は、昨年11月28日及び12月5日に、切花葉ボタンを対象に行いました。出展数は各地区から選抜された12点で、審査員による厳正な審査の結果、最優秀賞に、加賀市の梅田さんが選ばれました。その他、優秀賞に3名、奨励賞に1名の方々が選ばれました。入賞者の皆さんは下表のとおりです。おめでとうございます。

賞状の授与に続き、来賓を代表して種本課長から、受賞された皆さんに対するお祝いの言葉と今後の花き振興に向けた本会の活躍を大いに期待する旨の祝辞が寄せられました。

最後に、県農業総合研究センター中央普及支

援センター田中センター長から審査講評がありました。今年度は、播種、定植時の高温やその後の乾燥傾向による生育不良が心配されましたが、出展された圃場では、草丈が十分確保されており、栽培管理も良好であったとの講評をいただきました。その中で、入賞した5点は、生育の揃いが良く、病害虫の発生もみられない点が高く評価されました。また、切花葉ボタンは、頭の部分の直径が小さくコンパクトな草姿が好まれることから、植付本数を増やすなどの検討をしてはどうかとのこと意見をいただきました。



最優秀賞を受賞した梅田さん

	賞 名	入賞者氏名	所属団体名
最優秀賞	石 川 県 知 事 賞	梅田 文江氏	J A加賀花き部会
優 秀 賞	全農石川県本部運営委員会会長賞	農事組合法人 アグリ松東	J A小松市花き部会
	金沢総合花き株式会社社長賞	西納 幸三氏	J A加賀花き部会
	株式会社金沢花市場社長賞	中橋 よし子氏	羽咋郡市切花研究会
奨 励 賞	石川県花き園芸協会会長賞	松崎 好昭氏	J A金沢市砂丘地集出荷場フラワー部

## 情報交換会を開催

平成20年2月22日(金)、第3回石川県花き品評会表彰式に続き、情報交換会が開催され、総勢61名の参加をいただきました。県農業総合研究センター中央普及支援センター梅田担当課長の進行で、県農業総合研究センターの試験研究結果や新しい流通のしくみ、県外視察研修の報告など、本年度の活動成果について情報提供をしていただきました。

### 情報交換会のテーマと提供者

- ① 8月咲き小菊品種比較試験及び切花葉ボタン直播き試験結果について  
県農業総合研究センター園芸栽培グループ  
吉住 隆司氏、藤田 敏郎氏
- ② JA松任におけるケイトウのバケツト流通(契約取引)システムについて  
県石川農林総合事務所 小村 由美氏
- ③ 日本一の花木産地(茨城県)視察研修について  
JAはくい押水花木部会 野村 清志氏
- ④ 沖縄県露地小菊産地視察研修について  
JA金沢市花卉部会 寺本 貴氏
- ⑤ 菊種苗会社 精興園への視察研修について  
野々市町花き生産組合 福田 康浩氏

主な内容は次のとおりです。

### 【8月咲き小菊の品種比較】

- ・精興園の品種の中で、県内主力品種である「はじめ(白色)」、「あけみ(黄色)」、「おふく(赤色)」に代わる新品种を検討。
- ・協会が開催した品種検討会において、継続検討品種として、白色3品種、黄色3品種、赤色2品種を選定した(詳細は「花だより Vol.4」参照)。
- ・次年度は、精興園から提供されるさし苗に加え、継続検討品種を自家育苗したさし苗も用いて開花時期等の確認を行う。

### 【種小輪切花葉ボタン生産のため直播密植栽培を検討】

- ・「初紅(赤色)」では、直播密植栽培をすると、対照の移植栽培よりも切花長が長くなり、茎は細くなる傾向がある。
- ・「晴姿(白色)」については、切花品質に差がみられなかった。

### 【バケツト流通システムにより鮮度と選花効率が向上】

- ・JA松任では青果物の選果場を利用してケイトウの出荷作業を実施。
- ・水あげた状態のまま出荷できるELFバケツトシステム(Auction)を導入し、市場から好評を得ている。
- ・選花効率もアップし、産地拡大が期待できる。

### 【日本一の花木産地に負けない自信あり】

- ・茨城県土浦市は、土壌条件や大区画圃場における機械化など、どこをとっても日本一の規模を誇る花木産地である。
- ・しかし、質より量で勝負している傾向がみられ、市場ニーズにマッチしているとは言い難い。
- ・当部会は現在、地元や関西市場への出荷がほとんどであるが、関東方面へ進出しても、「質」で勝負できる自信がある。

### 【品質管理とオリジナル品種で全国を制覇】

- ・沖縄県の菊類の生産額は117億円、そのうち55%が小菊であり、栽培面積573haという日本一の小菊産地である。
- ・露地の大きな畑すべてが電照栽培。気象条件の違いと雑草の多さに驚いた。
- ・集出荷場ではバーコードを導入し、生産者や品種名などがコンピューターに登録されているほか、検品も徹底されており、クレームはほとんどない。
- ・沖縄県オリジナル品種が多く、興味深いものもあった。

### 【最先端の施設・生産技術で新品种を開発】

- ・精興園は、菊の登録品種国内シェア60%を誇る種苗会社。
- ・広島県世羅町にある施設では、町の名前を取ったセラマムの育種を実施。
- ・作業のほとんどは自動化されているが、人手がかかる定植作業などは、海外からの雇用を活用している。
- ・県内では自家育苗が主体であるが、精興園へ1品種につき1回の許諾料を支払えば、毎年、さし穂を安定して購入できる。このような方法を今後検討してはどうか。



JA松任が導入しているケイトウのバケツト流通システムについて情報提供する石川農林事務所の小村さん



菊種苗会社 精興園への視察研修について情報提供する野々市町花き生産組合の福田さん

## ◇新しい動き◇

### 浅紫色のフリージア新品種「石川f1号」の育成

フリージアは、冬から春にかけて、低温で日照の少ない本県においても、花色が鮮やかで、ハウスで簡単に生産できる品目です。一方、現在栽培されているフリージアの品種は、オランダで育成され、花色が濃い原色のものが多く、パステルカラー(中間色)のものが少ない状況にあります。

そこで、農業総合研究センターでは平成9年よりオリジナル品種の育成に取り組み、これまでにない中間色の浅紫色で草姿に優れた「石川f1号」を育成しました。

#### ◇育成経過

平成9年に白色品種「エレガンス」を母本、紫色品種「セイラー」を父本として交配し、得られた30系統の中から選抜を行いました。平成13~14年に花色・草姿が優れた1系統を選抜し、平成15~17年の特性調査の結果、有望と認められたので、平成19年3月に「石川f1号」として品種登録出願を行いました。

#### ◇品種特性

花色は、中間色の浅紫色(日本園芸植物標準色票8603)で、従来の薄紫色品種「ブルーペン」に比べて、紫の色调がやや強いのが特徴

です。また、花数も多く開花時のボリュームがあります。茎は長くて太く、花付と草姿の調和がとれています。また、「ブルーペン」の欠点であった花下がり傾向が少なく、切り花品質に優れています。

開花時期は3月下旬で「エレガンス」より早く、「ブルーペン」並です。

なお、「石川f1号」は他品種同様にウイルス症状の発生がみられるので、栽培においてはアブラムシの防除とウイルス罹病株の抜き取りが必要です。

#### ◇今後の取り組み

「石川f1号」はフリージアのカラーバリエーションを広げる品種として期待できます。昨秋には、県内のフリージア生産農家等を対象に12,500球の球根を配布し、試験栽培を行っています。

また、当センターでは、花色を揃えたオリジナル品種のシリーズ化を目指し、県内市場・花屋・生産者等とともに「石川f1号」に続く品種の育成を行っているところです。

(県農業総合研究センター主任技師 井須 博史氏)